

2015年4月24日

報道関係者各位

株式会社 ACCESS
IP Infusion Inc.**IP Infusion、統合ネットワークオペレーティングシステム
「OcNOS™」を発表****ーデータネットワークへの「Open Compute Project」技術導入を加速ー**

株式会社 ACCESS（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：兼子 孝夫、以下 ACCESS）の米国子会社 IP Infusion Inc.（本社：米国カリフォルニア、最高経営責任者：大石 清恭、以下 IP Infusion）は、本日、データセンター事業者や企業向け統合ネットワークオペレーティングシステム「OcNOS™（オクノス）」を開発したことを発表いたします。「OcNOS」により、高効率で低コストな運用を目指してハードウェアのオープンソース化を推進する団体「Open Compute Project（オープンコンピュータプロジェクト、OCP）」のコンセプトを、データネットワークにも導入することが可能となります。また、MPLS（Multi Protocol Label Switching）のような大規模ネットワークで使用されるプロトコルもサポートしています。OCPに準拠したMPLS対応の統合ネットワークオペレーティングシステムとしては、業界初となります。ACCESS および IP Infusion は、本日より、「OcNOS」を、主に国内外のデータセンター事業者や、データセンターを保有する企業・サービスプロバイダを対象に販売開始いたします。

近年、データセンターを保有する事業者には、よりキャパシティ（処理能力）が高く、運用が簡便であり、新サービスをスピーディかつ低コストで追加可能なインフラの構築が求められています。このため、事業者は、流動性に富み、高アジリティ、かつ高効率なアプリケーションアーキテクチャのサポートを可能とするネットワーク構築のための新たなアプローチを模索しています。サービスのアジリティを実現するためには、柔軟にプログラムが出来るネットワークが不可欠ですが、従来のネットワークソリューションでは、事実上、プロプライエタリなハードウェアやソフトウェアによって厳密に統合されているおり、また、運用の際の自動化・管理・監視・保守のための汎用の管理ツールキットは存在しないため、結果的にネットワークの構築・運用は複雑で高額なものとなっています。このような複雑性は、システムおよび運用者におけるエラーや脆弱性の原因となるだけでなく、設備の初期投資や運用面での高額なコスト構造を招いています。

「OcNOS」はキャリアグレードのネットワークオペレーティングシステムを提供することにより、こうした事業者が抱える問題を解決します。事業者は、ハードウェアとしてベアメタル製品を採用することによる価格／性能面での優位性のみでなく、ソフトウェアとしても「OcNOS」による柔軟なネットワークアーキテクチャを得ることができます。これらの優位性は、ソフトウェアにより定義された（software-defined）次世代型のデータセンターや企業のネットワークにおける高アジリティ化や運用の効率化にも適応できます。

IP Infusion の最高経営責任者（CEO）大石清恭は、

「今日、大規模データセンターを有する事業者は自社の設備投資と運用コストを削減する必要に迫られていますが、OCP のような革新的なネットワーク技術に移行しつつ、従来のネットワークコ

ンポーネットも維持しなければなりません。『OcNOS』は当社顧客が求めている SDN (Software-Defined Networking) によるデータセンターを実現できるようにするもので、これにより、事業者は、プロプライエタリな製品に縛られることなく、自社固有の要件を念頭に置いて、大規模な自社データセンターを構築するという、抜本的なアプローチの転換が可能となります」と、述べています。

「OcNOS」はモジュール型のマルチタスク・ネットワークオペレーティングシステムであり、今日のデータセンターを運営する企業やサービスプロバイダのネットワークシステムに欠けている、運用面でのスピード・簡便性・低コストを補完します。IP の、ネットワークミドルウェア「ZebOS®」をベースに構築されているため、その豊富な搭載実績が証明する堅牢性を享受することが出来ます。

「OcNOS」は、通信機器メーカーや通信事業者がコモディティハードウェアを用いて、堅牢かつ拡張性があり、冗長化されたソリューションを開発するために必要な機能を提供します。

ネットワーク機器のパートナー企業は、次のようにコメントしています。

オープンスイッチの米大手プロバイダーである Agema Systems 社の社長 Jay Huang 氏

「独立系のネットワークオペレーティングシステムを探すにあたり、サーバ間を広帯域で接続でき、それらの拡張を自動で行いたいという当社顧客のニーズを満たすソリューションを検討した結果、IP Infusion との提携に至りました。近年、クラウドコンピューティングを必要とする顧客は、特定メーカーのスイッチオペレーティングシステムに縛られない、拡張性のあるデータセンターネットワークプラットフォームの構築を求めています。Agema の堅牢なネットワークスイッチと『OcNOS』の組み合わせにより、こうした顧客からの増大する要求に応えることができるようになりました。」

<http://agemasystems.com/>

Edge-Core Network 社 CEO 兼 Accton Technology 社 データセンターネットワーク部門ゼネラルマネジャー、George Tchapanian 氏

「オープンネットワーク、SDN、NFV (Network Functions Virtualization) といった、昨今の新たなアプローチにより、クラウドサービスプロバイダや企業は、より多くのサービスを、より迅速に、より低コストで提供する次世代データセンターを活用できるようになります。Accton は IP Infusion との協力により、こうした新たなクラウドインフラに向けて、Edge-Core のオープンなデータセンタースイッチ上で動作する、堅牢かつ高機能なネットワークオペレーティングシステムである『OcNOS』を提供できることを嬉しく思います。」

www.edge-core.com www.accton.com

Interface Masters 社 創業者 兼 CEO、Ben Askarinam 氏

「IP Infusion との連携により、当社の Leaf & Spine 型ハードウェアと IP Infusion のフル機能の『OcNOS』ネットワークソフトウェアを併用することで、購入後すぐに使える統合ソリューションを提供できるようになり、非常に嬉しく思います。IP Infusion の『OcNOS』と高品質な米国製ハードウェアにより、当社顧客の個別要件に合わせて、コストパフォーマンスが高い柔軟なスイッチを提供できるようになりました。」

www.interfacemasters.com

「OcNOS」は主に以下の機能を提供します。

■多様な CPU とハードウェア上に実装可能な、汎用性 -- 抽象化レイヤを用いた設計

抽象化レイヤにより、多様なコントロールプレーン CPU と、商用オフザシェルフ（commercial off-the-shelf、COTS）ハードウェアで構築されたとフォワーディング機能上でのソフトウェアの稼動が可能になります。「OcNOS」は、多様なコントロール CPU を搭載した複数のコモディティハードウェアや、様々なベンダーの ASIC とネットワークプロセッサを搭載したデータプレーン上で統合および検証済みです。これにより、ネットワークアーキテクト（設計者）は、複数ベンダーのハードウェアで構築されたプラットフォームに向けて、カスタマイズ可能なシームレスなネットワーク設計が可能となります。

■広範なプロトコル機能

「OcNOS」はゼロから設計されており、企業、大学、データセンター、通信事業者およびモバイルバックホールなどのそれぞれのネットワークに必要な機能を提供します。レイヤ 2 機能、レイヤ 3 機能、MPLS、MPLS-TP などを包括的にレガシーネットワーク上に配置することが可能です。広範なコントロールプレーン機能には、豊富な市場実績を有する 4 世代にわたるネットワークミドルウェア「ZebOS」シリーズの技術を採用しています。

■相互運用性と簡便性

「OcNOS」は、大手ベンダーの独自仕様に加えて業界の標準仕様に基づき設計されており、運用・管理には、CLI、REST、NetCONF、SNMP といった業界標準が採用されています。このため、「OcNOS」搭載のネットワーク機器は、運用が容易であり、他のベンダーソリューションとの相互運用性が確保されています。完全なトランザクション管理が行える管理プレーンにより、ネットワークプロバイダは複雑な自社ネットワークアーキテクチャの管理機能を包括的かつ迅速に低コストで提供できるようになります。上位（Northbound）および下位（Southbound）の API を用いることにより、独自の管理ソリューションのプログラム作成が可能です。

■モジュール設計

主要なプロトコルを個別に扱う複数の処理機能を備えた高度なモジュール設計を採用しており、フレームワークによって管理されているため、スケール規模や性能に応じた導入が可能です。また、コントロールプレーンとデータプレーンは分離しており、優れた柔軟性および拡張性をネットワーク機器のアーキテクチャにもたらしめます。

■革新的なネットワーク技術に対応

データセンターや相互接続における、MLAG、SPB、TRILL ならびにデータセンターブリッジ等の二等分された帯域拡張に必要な技術をサポートします。SDN、ハイブリッド SDN および分散型コントロールプレーンや NFV に必要な機能をサポートします。

■高可用性と信頼性

VRRP、BFD、リング障害回復プロトコル（保護スイッチ）、データセンターブリッジ、トランフィックエンジニアリング、ステートフル スイッチオーバーおよびグレースフルリスタート等のメカニズムなどの、標準規格をベースにした冗長化されたプロトコルを提供し、高可用性、高信頼性、ネットワークレベルでの冗長性を実現しています。

「OcNOS」に関するより詳細は、<http://www.ipinfusion.com/>（英語）をご覧ください。

なお、IP Infusion は、2015年4月28～30日に米国ラスベガスで開催される「Interop」に出展（ブース1163番）し、「OcNOS」を披露します。また、2015年6月10日～12日に幕張メッセで開催予定の「Interop」での展示も予定しております。

■IP Infusion Inc.について

IP Infusionは、最適化されたイーサネットやIPサービス向けに高機能ネットワークソフトウェアを提供する、業界の先駆的企業です。通信機器メーカーは、IP Infusionの「ZebOS®」やその他のグローバル向け専門サービスを活用することで、製品の迅速な市場投入や競合他社との差別化を低コストで実現することが出来ます。IP Infusionの技術が実装された製品は5大陸のほぼ全てのネットワークに搭載されています。またネットワークの機能向上や設備コストの削減、収益の改善を目指す企業による採用も増えています。カリフォルニア州サンタクララに本社を置き、ACCESSの100%出資子会社です。

<http://www.ipinfusion.com>

■株式会社 ACCESS について

ACCESS（東証マザーズ：4813）は、1984年の設立以来、独立系ソフトウェア企業として、世界中の通信、家電、放送、出版、エネルギーインフラ業界向けに、モバイル並びにネットワークソフトウェア技術を核とした先進のITソリューションを提供しています。累計搭載実績10億台を超えるモバイルソフトウェアおよび250社以上の通信機器メーカーへの豊富な採用実績を誇るネットワークソフトウェアにおける仮想化技術の開発力とノウハウを活かし、現在、組込とクラウド技術を融合したIoTソリューションの開発・事業化に注力しています。アジア、米国、ヨーロッパ地域の子会社を拠点に国際展開も推進しています。

<http://jp.access-company.com/>

※ACCESS、ACCESSロゴは、日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。

※IP Infusion、IP Infusionロゴ、OcNOS、ZebOSは、IP Infusion Inc.の米国ならびにその他の国における商標または登録商標です。

※その他、文中に記載されている会社名および商品名は、各社の登録商標または商標です。

本件に関するお問い合わせ

報道機関からのお問い合わせ

TEL：043-212-2230

E-Mail：prinfo-gr@access-company.com

投資家・株主からのお問い合わせ

TEL：043-212-2232

E-Mail：ir_o-gr@access-company.com